

金立公園の徐福像。遠く西方を見つめる



1 古代アジアの大スター 徐福が来ていた？

東アジア各地でテレビドラマや映画の題材になっている「徐福」。紀元前3世紀ごろ、秦の始皇帝の命令で不老不死の薬を探しに向かったとされる。その徐福に関する伝承が佐賀市内には多く残されている。諸富町から上陸し金立山を目指したとか、一行が井戸を掘ったなど、現在の地名の由来になったものも多い。

徐福伝説は日本だけで25カ所、韓国・済州島や台湾にも伝わっており、現代においても人気が高い。中国の歴史書によると、徐福は童男童女3000人と100工（技術者）と一緒に航海に出たとされる。「そのほか船を操縦する人を合わせると5000人。100人乗りの船で50隻の大船団だったのではないか」と佐賀県徐福会の占部義弘副会長は推測する。「佐賀に来た確実な証拠はないですが、大陸から高い技術と知識を持った集団が、この地に来ていても不思議ではありません」。その一部が佐賀に住みついて私たちの先祖となっていたのかも…。

知っているようで意外に知らない佐賀の歴史。他県の人に自慢できる、とっておきの話を10にまとめました。

佐賀の歴史が分かる 10話

特集 歴史を知って 佐賀を自慢しよう！

佐賀はどういうところですか？ 市外、県外の人に尋ねられて困ったことはありませんか。佐賀を面白くするには、まず佐賀がどういうところか知ることです。その手始めに「歴史」というキーワードで、佐賀を探ってみました。掘ってみると、出るわ出るわ、たくさんの宝が埋まっていました。そのお宝の数々をみなさんにご紹介します。



2

縄文時代も佐賀人はグルメだった？

カキ、アゲマキ、シジミ…。現代でも美食家に珍重される食材を佐賀の縄文人が食べていた！ 巨勢川調整池で発見された東名遺跡の貝塚からは、美味しい貝の貝殻が大量に見つかっている。

もう木製の編かご、骨角製の装身具など、貴重な遺物が出土している。日本最古といわれる木製編みかごは、ドンダリを水漬けにするために使用していたと考えられている。料理の命は下ごしらえといわれるが、縄文時代から佐賀人はかなりグルメだったのではないだろうか。

東名遺跡から出土した貝塚の地層（佐賀導水操作室内の東名遺跡ガイダンス展示）



佐賀の歴史年表

縄文・弥生時代		縄文時代	弥生時代
前5000頃		東名遺跡（貝塚・墓・住居跡）（佐賀市）	
前4000頃		稲作農耕の開始・金立大門遺跡・久保泉丸山遺跡・石墓・新堀土器	
前3000頃		徐福渡来伝説	
前2000頃		クニと王の出現 中国王朝との交渉	
前1000頃		惣座遺跡環濠集落・惣座遺跡銀製指輪・ガラス玉副葬土器・嘉瀬川河床出土方格規矩四神鏡（佐賀市）	
前500頃		卑弥呼、魏に遣使。新羅王の金印を受ける	
前400頃		牟田部貝塚（佐賀市）	
古墳・奈良・平安時代		古墳時代	奈良・平安時代
400頃		鏡子塚（佐賀市）	
500頃		船塚古墳・西隈・久保泉丸山古墳（佐賀市）	
550頃		西山古墳の石製棺・西隈古墳の葺石	
600年代頃		帯限山神龍石佐賀市・佐賀市金立町家久保泉町に分布する古墳の大部分がこの時期に築造	
687		丁永遺跡の石製紡錘車	
700年代頃		律令国家の成立・国府の設置・小城市で采里制施行。仏教の普及・氏寺の造営・大願寺開寺（佐賀市）	
740		藤原広嗣、惣座で捕らえられる	
750		この頃から肥前国分寺の造営始まるか	
774		吉備真備、肥前守に左降される	
812		この頃、肥前風土記の成立か	
874		宝龜五年二月十一日肥前国佐嘉郡橘寺之鐘の銘のある銅鐘宇葉成田市出土	
895		諸国に命じ風土記を再撰させる	
919		この年、佐嘉荘・太宰府・天満宮・安楽寺領となる。斯久荘も安楽寺領となる	
959		河上神社の社僧円尊が河上別所実相院の前身を建てる	
1019		この年、平家貞、日向通良の反乱を平定する	
鎌倉時代		鎌倉時代	鎌倉時代
1197		この頃、肥前の総田数は一万四千三百三十一町歩	
1226		二月、佐嘉領内の小地頭ら、地頭得分に付き惣地頭連沼史国と相論し、幕府に訴える	
1230		一月、龍造寺領家（少貳氏）、末吉名内の荒野の開墾を命令する	
1274		十月、蒙古軍襲来（文永の役）松浦党、白石・千葉氏ら肥前の諸氏、博多沿岸・松浦で応戦	
1276		三月、幕府石炭地築造を肥前国御家人に命じる。この月の二十日以前に博多津に到り分担運所役の浜につかせる	
1281		七月、蒙古軍再襲（弘安の役）。龍造寺氏・松浦党など肥前の武士、吉原で蒙古軍と戦つ	
1287		一月、幕府、肥前国内の御家人が荘園本所一円の預所らを二番に分け異国警固につかせる	
1298		この頃、肥前の田数一万七千八百八歩	
1318		五月、龍造寺家泰以下の肥前の御家人等、少貳氏に従い、鎮西探題を攻略する	



3

佐賀の由来は「楠」と「賢い女性」

奈良時代に書かれたとされる「肥前国風土記」に「佐賀」の由来についての記述がある。昔、この地にはすくなく大きな楠があった。朝日が当たるとその木陰は杵島郡（現在の江北町あたり）のこと。「栄」の国がい

山を覆い、夕日が当たると養父郡（現在の鳥栖市あたり）の山を覆ったという。その巨大な楠の勢いのよい姿を見た日本武尊が「この国を栄の国と称するに、通行人の半分を殺して、困った県主（地方行政を司どる官職）の先祖である大荒田が、地方豪族の娘2人に占わせた。占いは通りになると祟りは収まった。大荒田は「この2人こそ、まさに賢女だ。これを国の名としよう」と言った。昔から佐賀の女性は優秀だったんですね。

大きく「栄え」たクスノキ（与賀神社）

南北朝時代		南北朝時代	南北朝時代
元弘三		十一月、後醍醐天皇綏旨を下し、高木正法寺はか肥前の諸社寺の所領を安堵する	
建武三		三月、龍造寺家泰・千葉常胤ら足利軍に属して筑前多々良浜に戦う。天皇方の阿蘇惟良肥前に逃れ、天山山系で自刃する	
暦応元		三月、九州探題一色軍、筑後石垣山襲取城で宮方の菊池軍と戦う。龍造寺家房、肥前の御家人が参陣する	
観応元		一月、足利直冬、今川直貞を将にして肥前に進み佐賀・小城各都で戦う。その勢威は肥前の大半に及ぶ	
文和五		八月、懐良親王、肥前制庄のため出征する。国府に入り、小城に陣する	
正治四		八月、千葉・高木・龍造寺・松浦の各氏は少貳頼尚に与し、波多・後藤氏は懐良親王に属し、筑後大原で戦う。少貳頼尚、これに大敗する	
永和三		一月、今川仲秋、菊池武興ら宮方と佐賀郡千布郷打に戦い、大勝利する	
室町時代		室町時代	室町時代
永享五		八月、少貳資頼、大内持世と佐賀郡唐子で戦い、敗死する	
享徳三		三月、九州探題深田教直、少貳教頼と佐賀郡巨勢野に戦う	
戦国・安土・桃山時代		戦国・安土・桃山時代	戦国・安土・桃山時代
文明元		六月、千葉教胤、大村氏攻撃中に事故死する。族の胤朝が相続する	
十		九月、千葉胤朝、岩部常業を千葉城に攻める。以後、岩部常業と中村胤明が佐賀・小城で再三戦う。諸寺の寺塔多数焼失する（肥前一揆）	
十四		この年、少貳政資、龍造寺氏を頼って佐賀の地に入る。与賀の大明神を鬼門の鎮守とする	
享禄三		八月、少貳氏の將龍造寺家兼、大内氏と神埼田手縄手に戦い、勝利する	
天文五		九月、大内氏の將陶興房、少貳資元を多久に攻め、自害させる	
十四		春、龍造寺家門、千葉喜胤、龍造寺を和解させ、少貳・千葉・龍造寺三氏の和睦成立	
十五		一月、少貳冬尚と馬場頼周の計略で龍造寺家兼の一族が多数謀殺される。家兼は筑後に亡命するが、一月後水ヶ江城を奪還する	
十七		三月、龍造寺家兼没し、胤信、胤信が水ヶ江家を継ぐ	
二十		三月、本家の龍造寺胤栄が没し、胤信、胤信が惣領家を継ぐ	
二十二		十月、胤栄の將士橋本益隆を追い、龍造寺鑑兼を擁立する。隆信、筑後に亡命する	
弘治二		八月、隆信、川副郷士らに迎えられ佐賀に帰国する	
二		この年、隆信の母慶長、鍋島清房に再嫁する（隆信と鍋島直茂は義兄弟となる）	
永禄二		一月、少貳冬尚、龍造寺隆信に攻められ神埼勢福寺に逃れて自害する	

4

佐賀には江戸時代から
上水があった

江戸時代の主要な98城
下町で上水を導入してい
たのは21か所。九州内は
5か所で、そのうちの1
つが佐賀の多布施川だっ
た。大正時代に水道が作
られるまで佐賀市内では
川の水をそのまま飲用し

ていた。森陽外の小倉日
記には、軍医として出張
した佐賀市で、市民が川
の水を飲んでいて、との
記述がある。
多布施川は、嘉瀬川の
水を佐賀城下まで運ぶ導
水路として、江戸時代初

期に建設された。工事を
指揮したのは成富兵庫茂
安。取水口である「石井
樋」には、土砂を沈殿さ
せる仕組みなどを取り入
れつつ、洪水時には水が
流れ込まないような工夫
が施されている。現在も
佐賀市の水道の多くは多
布施川が水源となってい
る。

5

江戸時代の「東大」
昌平黉進学者数ナンバーワン

東京・神田湯島に江
戸幕府が設立した「昌
平坂学問所（昌平黉）」
東大の源流のひとつと
なった当時最高の学校
は幕府直参だけではな
く、藩士、郷士、浪人
の聴講入門を許可して
いた。この学校への各
藩の進学者数を調べて
みると、佐賀藩がダン
トツの1位。48人を送
り込んでおり、2位仙
台藩の約2倍だった。
同学問所は、入学金



昌平坂学問所へ多くの生徒を送り込
んだ佐賀藩藩校「弘道館」跡の碑（徴古館）

同校では、佐賀藩出
身の儒学者・古賀精里
が教授に抜擢されてい
た。精里は昌平黉以前
に佐賀藩の藩校「弘道
館」の設立に深く関
わっており、佐賀藩の
教育レベル向上に貢献
した。佐賀藩士の子ど
もは全員、弘道館へ入
学しなければならず、
25歳までに一定の課業
を納められない学生は
家禄を減らされ、藩の
役職につくこともでき
なかったという。その
厳しい教育方針は全国
的に有名だった。

6

佐賀藩は全国8番目の
経済力を誇っていた

現在、佐賀県の経済
力を示す県内総生産は
47都道府県中43番目。
その佐賀が江戸時代に
は全国8番目の国力を
持っていたと聞いて信
じられない人も多いだ
ろう。事実、徳川家や
御三家を除いた全国の
藩の石高を調べたとこ
ろ、佐賀は36万石で、
長州藩（37万石）に次

	藩名	藩主	藩種	表高
	將軍家	徳川家	將軍	400万石
1	加賀藩	前田家	外様	103万石
2	薩摩藩	島津家	外様	77万石
3	仙台藩	伊達家	外様	63万石
	尾張藩	尾張家	親藩	62万石
	紀州藩	紀州家	親藩	56万石
4	熊本藩	細川家	外様	54万石
5	福岡藩	黒田家	外様	47万石
6	広島藩	浅野家	外様	43万石
7	長州藩	毛利家	外様	37万石
8	佐賀藩	鍋島家	外様	36万石
	水戸藩	水戸家	親藩	35万石
9	津藩	藤堂家	外様	32万石

ぐ第8位だった。ち
なみに1位は加賀藩の
103万石。
土地の生産性を表した
もの。主にコメ収穫量

で計算するが、それ以
外の農作物や海産物の
生産量もコメに換算し
て算入されている。
江戸幕府は石高に応
じて、各藩の格式や参
勤交代の人数、大きな
工事の負担割合、軍役
の数などを決めてい
た。石高が増すごとに
負担が大きくなるの
で、大名であること
を素直に喜ぶわけには
いかなかったようだ。

7

なぜ佐賀に大きな祭りがないのか

唐津にはくんち、博多は山
笠。古い街には伝統的なお祭
りがあるものだが佐賀市に
はない。唐津も博多も商人の
街として発展しており、祭り
の目的も神さまに家業繁栄や
家内安全を願うもの。神さま
を楽しませようと、次第に豪

華、勇壮になってきた。
佐賀で「日峯さん」として
親しまれている「松原神社」
が祀っているのは佐賀藩の藩
祖・鍋島直茂。つまり殿様が
神様になっているのだ。家業
繁栄はちよっとお願いしにく
い。作った八代藩主・治茂も

藩祖の苦勞を偲ぶために建立
していると思われるので、な
おさら、どんなに騒ぎをす
る訳にはいかない。ちなみに
鹿児島市にも「くんち」のよ
うな祭りがなく、ここも28
代当主・島津斉彬を祀る「照
国神社」が総氏神となってい
る。

元龜	天正	文祿	慶長	〔江戸時代〕	元禄	正保	寛文	天明	文化	天保	文政	弘化	嘉永	安政
元一五七〇	六二五七八	元二五九二	一六二五八	一六二五八	一六二五八	一六二五八	一六二五八	一六二五八	一六二五八	一六二五八	一六二五八	一六二五八	一六二五八	一六二五八
八月、隆信の將鍋島直茂、鴨打頼忠・牛尾別当琳信らを幸い、大友親貞の陣する今山陣を奇襲し、大友軍を破る。	三月、隆信、有馬晴信・島津家久の連合軍と島原沖田礫に戦い、敗れて陣没する。隆信のあとには家者が継ぐ。	四月、龍造寺攻家、豊臣秀吉の島津氏討伐に従軍し、所領を安堵される。	十月、鍋島直茂、徳川家康の命で筑後柳川城主立花宗茂を討つ。	九月、龍造寺高房死去する。ついで十月、久保田に隠居中の攻家死去する。久保田の領地は高房の弟八助安良が相続し、村田氏を称する。	六月、佐賀城送普請完成する。	六月、佐賀城送普請完成する。	六月、佐賀城送普請完成する。	六月、佐賀城送普請完成する。	六月、佐賀城送普請完成する。	六月、佐賀城送普請完成する。	六月、佐賀城送普請完成する。	六月、佐賀城送普請完成する。	六月、佐賀城送普請完成する。	六月、佐賀城送普請完成する。

元禄	十三	一七〇〇	五月、山本常朝、出家受戒する。 十一月、佐賀城本丸聖堂を西屋敷（観願荘）内に移す。鬼丸聖堂となる。
宝永	七	一七一〇	三月、佐賀藩十田代陣基が、金立黒土原の山本常朝の草庵をたずねる。
享保	元	一七二六	九月、「葉隠聞書」十一巻、出来あがる。
寛延	十一	一七二六	佐賀城天守・本丸・二の丸・三の丸類焼する。
天明	十七	一七三三	享保の大飢饉。佐賀藩内で三万人の餓死者を出す。
安永	三	一七五〇	六月、諒平一揆おこる。
明和	七	一七七〇	七月、鍋島治茂、第八代佐賀藩主となる。
安永	元	一七七二	六月、鍋島直茂を「日華大明神」とし、松原小路に日華社（松原社）を奉祀する。
文化	元	一七八一	十二月、佐賀城下松原小路に、藩校「弘道館」建設される。
文化	三	一七八三	十月、佐賀藩、殖産興業のため「六府方」を設ける。佐賀藩「犯罪方」を設ける。
文化	四	一七八四	七月、蓮池藩、藩校「成章館」を設ける。（延享年間、学寮と称す。
文化	元	一八〇四	七月、日方使節が「ザンノ」漂流者を護送して長崎に來航する。
文化	三	一八〇六	長崎警備、佐賀藩主が参する。
文化	五	一八〇八	十一月、古賀穀堂、「学制管見」を献する。
文化	五	一八〇八	八月、イギリス軍艦「フートン」号、長崎に侵入する（十五日、長崎奉行松平康英が刃付十八日）。
文化	十	一八二〇	十一月、フートン号事件のため、佐賀藩主鍋島直正と幕となる。（翌年三月三日解除）。
文政	二	一八一九	この年、古賀穀堂、鍋島直正の御側頭となる。
天保	二	一八三〇	二月、鍋島直正、第十代佐賀藩主となる。
天保	二	一八三〇	六月、古賀穀堂、「済急封事」を献言する。
天保	五	一八三四	七月、佐賀八幡小路に医学寮（医学寮）が設立される。島本龍嘯寮監となる。
弘化	六	一八三五	五月、佐賀城二の丸、焼失する。
弘化	九	一八三八	六月、鍋島直正、再建された佐賀城本丸に移る。
弘化	十二	一八四一	正月、香焼団結と称し、長崎香焼島派遣（五十八人二年間）を決する。
弘化	元	一八四四	五月、佐賀藩、「火術方」を設け、砲術研究を始める。
嘉永	二	一八四九	九月、鍋島直正オランダ使節軍艦「バレンバン」号に乗り込み種々の質問、聞問をする。
嘉永	三	一八五〇	佐賀藩、「引痘方」を置き、領民に種痘を普及させる。
嘉永	五	一八五二	五月、「義祭同盟」成立する。
安政	四	一八五一	十月、築地に「二反射戸」を築き、鉄製大砲の鑄造にかかる。
安政	五	一八五二	三月、佐賀藩「文武課業法」を定める（安政六年五月廃す）。
安政	六	一八五三	十一月、佐賀藩、理化学研究の「精煉方」を設置する。
安政	七	一八五三	三月、伊王島・神島・四郎島の台場、ほぼ完成する。
安政	七	一八五三	七月、ロシア使節「チャーチン」軍艦四隻を幸いて長崎に入港する（十一月五日、再渡矣）。
安政	二	一八五五	七月、幕府の海軍伝書所設立され、佐賀藩より通算四十八名が派遣される。
安政	五	一八五八	八月、佐賀藩清煤方、蒸汽船・蒸汽車の「鑄形」製作に入る。
安政	五	一八五八	正月、三重津御船手棹古所、設立される。
安政	五	一八五八	十一月、佐賀藩、オランダに注文の蒸汽船（電流丸）を長崎で

8 文化勲章第一号は佐賀出身者

芸術家にとって最高の名誉とされる文化勲章。その受章者第1号の岡田三郎助も佐賀出身だ。1869年生まれ。幼年で上京、鍋島直大邸で百武兼行の絵に接し、洋画に関心を持ったといわれる。黒田清輝らに外光派の技法をまな

日本近代の洋画家のなかで、女性像を多く描いた画家として知られる。なかでも裸婦を描いた作品は日本近代美術史において独自の位置を確立している。

岡田三郎助「少女読書」 1924(大正13)年 油彩 佐賀県立美術館蔵



七賢人だけじゃない！あれもこれも佐賀んもんの仕事！

9

日本の近代化に貢献した佐賀出身者として有名な「七賢人」。江藤新平、大木喬任、大隈重信、佐野常民、島義勇、副島種臣、鍋島直正(閑叟)の7人だが、彼らに負けず劣らず、その後の日本の基礎づくりに貢献した佐賀人がいる。

近代医学制度を築く

相良知安(1836~1906)は明治初期の医学者。日本にドイツ医学を導入した功績者で、第一大学区医学校(現在の東京大学医学部)の学長。文部省医務局長などを歴任した。晩年は不遇で、易者として生活していたとい

日本初の工学博士、電気学会の創始者 志田林三郎(1835~1892)

工部省工務寮(現在は東京大学工学部)の電信科を主席で卒業。イギリスに留学し帰国。1986

年、隅田川の水面を使った導電式無線通信実験は世界最先端の研究だった。第1回電気学会の総会で電気工学による未来像を演説。無線通信、テレビやビデオなどの実現を予測した。情報・通信分野で先端的な成果を挙げた個人を表彰する「志田林三郎賞」にその名を残す。

近代歴史学の創始者

久米邦武(1839~1931)は岩倉使節団の一員として欧米12カ国を歴訪。その報告書「米欧回覧実記」は各国の歴史、制度、風俗を詳細に記述しており評価が高い。帝国大学教授として、史実の考証・実証主義を基盤とした「近代歴史学」を打ち立てた。

その他にも…東芝創業者(田中久重)、読売新聞創業者(本野盛亨)、森永製菓創業者(森永太一郎)、日本初の製麺機械発明(真崎照郷)、東京駅設計(辰野金吾)など

北海道も沖縄も 街づくりに佐賀人が貢献

10



斎藤用之助が沖縄で工事指揮した「用之助港」。サンゴ礁での難工事だった。■末岡曉美さん提供

明治政府が設置した北海道開拓使の初代長官は鍋島直正。直正は病気のため、実務にとりかかるとなく辞任するが、開拓使判官となった佐賀藩出身の島義勇が、原野だった札幌に近代的な街を建設する事業をはじめ

工事の予算が莫大に上がったこともあり、島は長官と対立して罷免。計画は島の構想に添う形で完成した。現在、札幌市役所と北海道神宮には、島義勇の銅像が立てられ

ている。

初代沖縄県令は肥前鹿島藩主の鍋島齊彬。また、明治期に沖縄の島尻群長を務めた11代斎藤用之助も佐賀出身。

1903年に硫黄島島が爆発し、島民は久米島の宇島島へ移ることを余儀なくされた。この移住を指揮したのが斎藤用之助だった。また糸満市では港湾工事を指揮。現在でも「大度の用之助港」として残っている。「用之助港」は今年、選奨土木遺産に認定された。

+1 佐賀城本丸歴史館がスゴイ！

DATA

佐賀県立佐賀城本丸歴史館

■住所 〒840-0041 佐賀市城内2-18-1

■Tel 0952-41-7550

■入場料 無料

■開館 午前9時30分から午後6時まで

■休館 年中無休

(12月29日~31日は休館)

開館6周年を迎えた佐賀城本丸歴史館。今年5月には「第12回公共建築賞」の地域特別賞(九州・沖縄地区)を受賞。同賞は文化性が高く、地域社会への貢献が高い公共施設を表彰するもので、公共建築協会(本部・東京)が選出した。特別賞は全国31点の優秀賞に次ぐ賞。

本丸歴史館は国内有数の木造大規模復元建築物。審査委員会からは「学術考証を丹念に行い、伝統工法を再現している」「多数の市民ボランティアが企画・運営に参加している」と評価された。

万延	元一八六〇	受領する。医学館を水ヶ江に移し「好生館」と改称する。五月、「文武課業法」を廃す。
文久	元一八六一	一月、遣米使節の従臣として、小出千之助、島内米之助等六名の佐賀藩士参加する(九月二十八日帰国)。二月、七月、ロシア軍艦ホサトニク号、対馬に暴行し占領を企てる。
元治	三二八六三	十二月、文久遣欧使節の従臣として石黒寛次、岡田守衛を加する(文久二年十一月帰国)。
慶応	元一八六四	四月、幕府上海派遣千歳丸に中牟田倉之助、納富次郎ら四名乗込み(七月六日より帰国の途につく。七月十四日長崎に着く)。
	元一八六五	十二月、鍋島開府、薩摩中山忠能に「直書」を提出し、京都守衛を申出する。
	三二八六七	三月、三重津に蒸気船の建造を始める。
		八月、佐賀藩兵、長州追討のために出兵する。
		九月、三重津海軍所で、蒸気船凌風丸完成する。
		三月、佐賀藩民小出千之助ら五名「パリ万国博覧会」に向けて、長崎より出発する。
		十二月、長崎藩早慶敷内に藩学稽古所のち致遠館と称すを置いて、フルベッキを教師とし、副島・大隈のもと二十名の生徒を英学研究をさせる。

明治	元一八六八	正月、佐賀藩主鍋島直大、藩兵を率いて伊万里より蒸気船で出発する。
	二二八六九	三月「天保山中の親戚式で佐賀藩の電流丸、先導艦を努める五月、上野の彰義隊を佐賀藩の阿姆斯ロング砲二門を射撃し、退去させる。
	四二八七一	六月、版籍奉還、鍋島直大佐賀藩知事、鍋島直虎小城藩知事に任命される。
	五二八七二	七月、鍋島直正北海道開拓使長官に、島義勇同開拓使判官に任命される。東原座倉、多久郷学校と改称。
	七二八七四	七月、薩摩藩兵、佐賀本藩は佐賀藩、小城藩は小城藩、蓮池藩は蓮池藩になる。
	九二八七六	十一月、佐賀・小城など六県を統合し伊万里県になる。
	一二八七九	十二月、佐賀・小城郵便局開局。
	一五二八八二	五月、伊万里県は佐賀県と改称、県庁は佐賀に移る。
	一六二八八三	二月、佐賀戦争がおこり、佐賀城焼失。
	一七二八八四	四月、佐賀県を廃し、三藩県へと併合。
		八月、三藩県を廃し、旧佐賀県を長崎県に移管。
		四月、佐賀第百八十六国立銀行設立(三十二年四月、株佐賀銀行百六銀行と改称)。
		三月、谷口鉄工場開設(昭和六年閉鎖)。
		五月、米銀行設立佐賀点合町(大正十四年五月唐津銀行に吸収合併)。
		六月、佐賀県、長崎県より分離独立。
		七月、佐賀県庁開庁。
		十月、精煉舎(ガラス製造)設立(現佐賀市多布地町)。
		七月、佐賀県師範学校開校(県内八中学校を廃し佐賀中学校設立)。
		八月、「佐賀新聞」発刊。

鍋島直茂



コメを強奪 大殿が愛した豪傑

これぞ葉隠武士というのが斎藤用之助。戦国時代末から江戸時代初期にかけて生きた人物だ。隆慶一郎氏の時代小説「死ぬことと見つけたり」のモデルになったと聞くと、思いたす人も多いだろう。「葉隠」の中に破天荒なエピソードが収録されている。

鉄砲が得意で戦国時代に数々の武功を挙げた用之助も、平和な時代を迎え次第に活躍の場がなくなっていく。ある日、「台所は火の車で食べる米さえない」と奥さんに泣きつかれてしまう。用之助は年貢米をお城へ運んでいた人に、殿様の使者だと偽り、献上米を自宅に運び込む。そのうえ、大胆にも受領書

に自分の名を署名。すぐにばれてしまい大問題になる。

当時の藩主・鍋島勝茂は用之助を打ち首にしようとするが、勝茂の父・直茂が「自分がこうして生きているのは用之助のような者の働きがあったからだ。そんな彼らが食べる米もないような生活をさせた私こそ大罪人だ」と嘆き悲しむ。勝茂は父の様子を知り用之助への刑罰を取り下げた。

「直茂死去の際、用之助は追い腹（殉死）をします。そのとき身に着けていた鍋島小紋の袴が、血痕が残ったまま現存しています。武士の美学と、これほど思い定めた主君への熱い思い。まさに武骨を絵に描いたような人です」と末岡さんは魅力を語る。

鍋島勝茂



斎藤用之助



歴女ブームに便乗？

佐賀にもいたイケメン葉隠男子

歴女ブームの昨今、全国各地の戦国武将がもてはやされている。佐賀にも「イケメン」の歴史上の人物がいるはず。容姿だけではなく、その生きざまがカッコイイ葉隠男子を、佐賀の歴史に詳しい末岡眺美さんに紹介してもらいました。ひよつとしたらあなたのご先祖さまがいらつしやるかも!?

成富兵庫茂安



老獯な戦国武将と支えた息子

斎藤用之助のエピソードに出てきた鍋島藩藩祖・鍋島直茂と初代藩主・勝茂も魅力的な人物だったようだ。直茂は龍造寺家老から大きな内紛もなく藩祖となった武将。主君であった龍造寺隆信の戦死後、肥前国の実質的な国政を担った。天下分け目の関ヶ原の戦いでは、息子・勝茂は西軍に参加。直茂は東軍勝利と読んで、兵糧を徳川家康へ献上したり、本戦開始前に勝茂を戦線離脱させている。また、九州内の西軍諸将を攻撃。久留米、柳川の両城を攻略した。この功績により本領安堵

が許された。外交、内政で老獯な手腕を発揮した。勝茂も龍造寺旧臣を重用するなど、佐賀藩内の融和政策を具体的に運用した。

「竜造寺家から鍋島家への権力移行を平和的に行った直茂は、竜造寺家中の人々からも慕われていたのでしょう。勝茂は父・直茂を支えたしっかりもの。父が間違った判断をした場合には、きちんと諫言するなど、鍋島36万石の基礎を作りました」。

悪ガキから河川改修のプロに

末岡さんが「上司にしたいナンバーワン」と推薦するのが成富兵庫茂安。小さいときは手のつけられない悪ガキだったが改心、数々の戦場で武勲をたてる。50歳を過ぎてから河川改修などの土木事業に従事。関わった事業は100以上。緻密な設計計画と、部下や工夫に敬愛された人徳で多くの難工事を成功させた。

佐賀市中心部への上水路である「多布施川」や、筑後川の12キロに及ぶ大堤防「千栗土居」など大きな土木工事を手掛けており、その技術は現代においても高い評価を受けている。「朝鮮出兵のときに大活躍した軍人が、歳をとってから技術者として更なる名声を得ました。人知れずかなりの努力をしたのではないでしょう。また工夫たちと一緒に作業小屋に泊まり、同じものを食べながら指導をしたといわれています。そういう人間的な厚みが、あらゆる人を惹きつけたので

村田若狭



は」と末岡さんは推察する。

好奇心旺盛のキリシタン家老

幕末期といえば、七賢人など、魅力的な人物が多いが、末岡さんが挙げてくれたのは村田若狭。「残された写真は高齢のときのもですが、目鼻立ちが涼しげで若いときはモチモチだったんじゃないかという印象。好奇心を抑えられない少年のような行動力と信念を貫く潔さにほれぼれます」。幕末期の久保田邑主で佐賀藩家老。聖書に興味をもち、禁教令中にも関わらずプロテスタントに改宗し、日本人で2人目の信者となった。

長崎警備に従事していた若狭のもとに、部下が海で拾った聖書を届けた。若狭は3人の部下を派遣し、宣教師であったフルベッキに

学ばせ、聖書の内容を報告させた。その12年後、若狭はフルベッキから洗礼を受ける。当時はキリスト教禁止の時代。地位や財産を失う危険もあったが、若狭の決意は固かった。藩主鍋島直大の寛大な処分により隠居となった若狭は、地元の久保田で聖書の日本語訳に励んだという。

世界が舞台 大スケールの政商

明治期には、官民学いろんな分野で佐賀男子が活躍したが、末岡さんが推薦するのは松尾儀助。明治期に国際的商社を運営。日本より海外で有名だという。1873年（明治6年）、ウィーン万国博覧会に茶商として参加。イギリスの会社が、万博で大好評だった日本庭園の購入を申し出た際、大隈重信の助

約400年前、佐賀藩鍋島直茂・勝茂父子によって行われた大規模な城郭構築と水利計画、町割りが現在の城下町佐賀の原型となっています。その様子を一目で把握できるのが御城下絵図。これを読み解けば、あなたも佐賀んまの歴史案内人！

御城下絵図を読み解く5つのポイント!!

① 折れ曲がりながら東西に走る長崎街道。

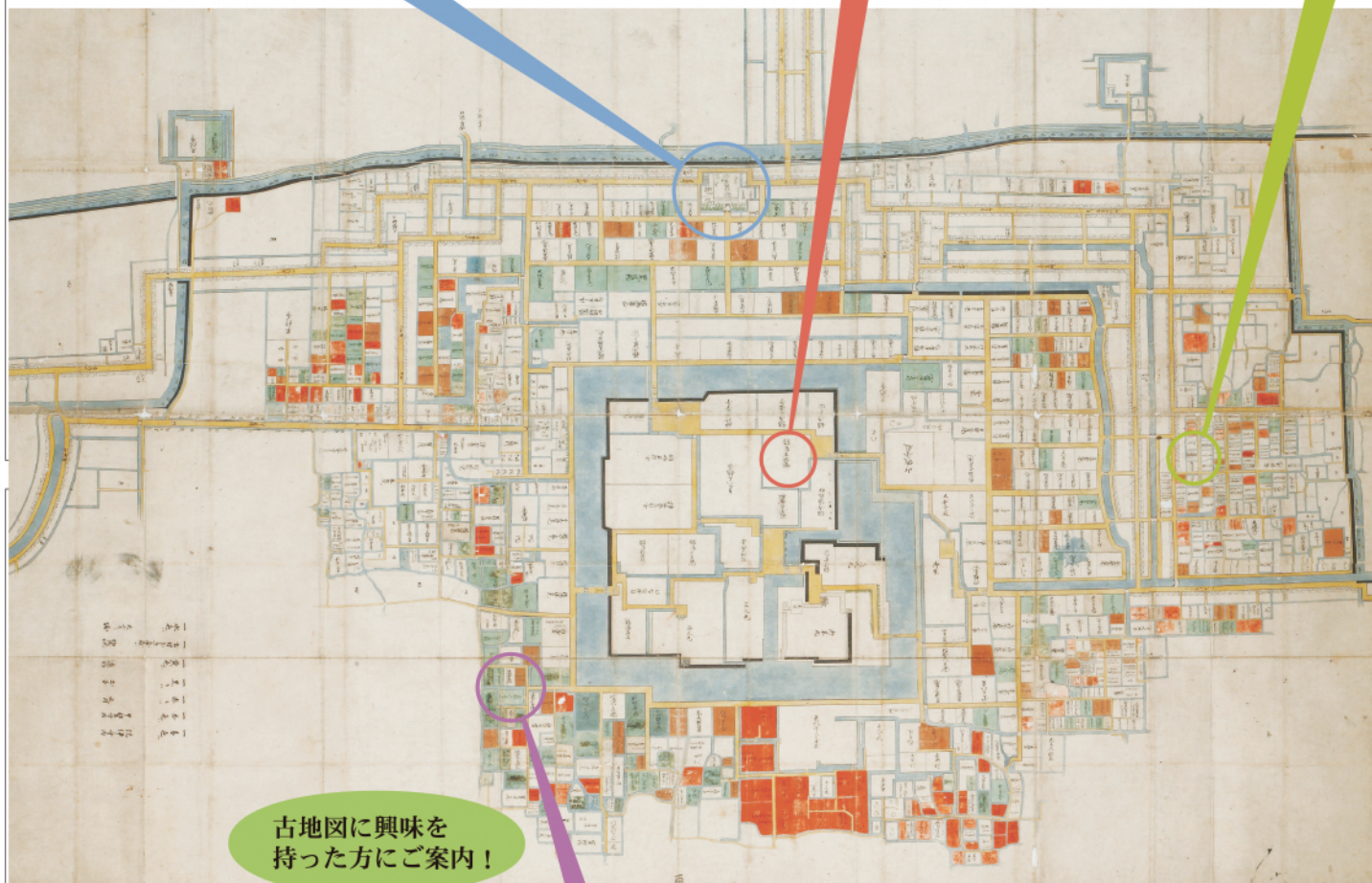
東西に走る折れ曲がった黄色い太い道が、小倉と長崎をむすぶ長崎街道です。佐賀では東は 構口から西は高橋まで通っており、城下町の外濠にあたる十間堀の南を通過していました。ちなみに、街道の南側に大きく表された建物は龍造寺八幡宮。このような絵画表現が随所に見られるのも御城下絵図の魅力のひとつです。

② 江戸時代佐賀の住宅事情。

屋敷の一区画の広さを見比べると、お濠の中は広く、城下町の周縁部に行くに従って狭くなっています。江戸時代佐賀のまちでは、城内やお濠の周辺部は上級家臣が住み、周縁部の住宅密集地域には中下級武士が住んでいました。このように佐賀城を守る形で武家の屋敷地が配置されていたわけです。

③ 御城下絵図は江戸時代のゼンリン地図。

城下町を縦横に走る道路や水路。これらのほとんどは今に生きており、本展では現代の地図との重ね合わせも試みます。そして、枠内に細かく書き込まれた文字が当時の住居者名です。つまり御城下絵図は道路地図としてだけでなく、住宅地図の役割も果たす江戸時代のゼンリン地図だったのです。



古地図に興味を持った方にご案内！

第1回 佐賀城下探訪会 葉隠ゆかりの地と御茶屋(藩主別邸)めぐり

徴古館では文化庁の上記支援事業の一環として、佐賀城下の歴史探訪会を開催します。城下のまち歩きを通して郷土の歴史を再認識し、誇りと自信を持てるように、そして、今後のまちづくりに繋げていくことを目的としています。今年度は9月から来年1月まで月1回、計5回実施します。

第1回目のテーマは「葉隠ゆかりの地と御茶屋(藩主別邸)めぐり」です。鬼丸の十五御茶屋(幕末の蘭伝石火矢砲製造所跡カ)、水ヶ江御茶屋(10代藩主 鍋島直正の別邸)や、葉隠の筆録者である田代陣基の屋敷跡(水ヶ江)など、今回の絵図読み解き作業で初めて確認された歴史的スポット等を中心に廻ります。

④ 区画のカラフルな色分け。

カラフルに塗り分けられた区画が点在していますが、これは緑色は小城藩士、茶色は蓮地藩士といった、分家の屋敷地などを示しています。このあと延宝(1673-81)以降、彼らの多くが各領地へ移住したのに伴いこの辺りの広大な空地に、3代藩主綱茂が観願荘(かんいそう)という別荘を築きました。

⑤ 展示公開が困難なほど超大画面！

城下町全体を1枚におさめた絵図ですから、そのサイズは驚くほど巨大で、縦2m×横3mもある大画面です。このため通常は展示が困難なこともあり、徴古館での公開は今回が初めてです。見えづらい小さい文字などは、拡大写真を数多く取り揃えておりますのでご安心下さい。

● 第1回 佐賀城下探訪会 葉隠ゆかりの地と御茶屋(藩主別邸)めぐり

● 【日時】平成22年9月5日(日) 10時～15時30分(予定)
● 【主催】徴古館 佐賀市松原2-5-22 【電話】0952-23-4200

● 【連携団体】
● NPOまちづくり研究所、プロジェクトA.S、佐賀城げんき会、佐賀大学都市工学科後藤研究室、塚崎・唐津往還を歩く会、鍋島文化を支える会、幕末佐賀科学技術史研究会、森と海を結ぶ会【支援】佐賀県・佐賀市

● 資料の準備の都合もあり、8月27日(金)までに予約が必要です。電話0952-23-4200またはメールinfo@nabeshima.or.jpまで。参加費は無料(但し、配布資料代は実費)。小雨決行。弁当・飲み物は各自持参をお願いします。

松尾儀助



言のもと「起立工商会社」を設立した。日本における美術工芸分野の名工たちの仕事を海外に紹介。1877年(明治10年)にはニューヨークに出店するなど、先見性と抜群の行動力で世界の美術界に日本ブームを巻き起こした。ボストン美術館など海外の有名美術館や個人コレクターのもとには現在も起立工商会社が仲介した作品が大切に保管されているという。また、ゴッホ美術館には、起立工商会社の茶箱の裏に書かれたゴッホの絵が残されている。

「起立工商会社は政府から当時のお金で40万円を出資させつくらせたのですが、うまく行かず10年ほどで閉鎖されました。そのため、松尾儀助は政府から金を騙し取って、結局失敗したとマイナス評価され、その名が埋もれてしまったと思います。佐賀銀行の前身である伊万里銀行の設立時には、多額の出資もしていて、世界で活躍してもなお、地元への愛着を忘れなかったんだと感じます。」

末岡さんに挙げていただいた6人以外にも、生きざまが格好良いイケメン葉隠男子がまだまだいるはず。歴史は書物の中だけではなく、今生きている我々に直接につながっている。興味を持った人は、家族ににご先祖さまの武勇伝を聞いてみるのはいかがでしょうか。

プロフィール

すえおか・あけみ

1955年千代田町生まれ。佐賀大学卒業。主に幕末・明治期の佐賀関連人物を研究している。著書に「大隈重信と江副廉蔵」。ブログ「幕末・明治の肥前こぼれ話」<http://blog.livedoor.jp/bakumatusaga/>

